

わたしとひろば

かよ（大阪府）

昨年3月11日のことは忘れもしません。その日は息子の幼稚園のお母さん友達と広い会館を借りて、子どもたちを遊ばせていました。私はその1週間前からめまいがひどく、ゆるい横揺れを感じたときも、またかな…と思いました。でも他のお母さんたちも同じ揺れを感じていたことがわかり、地震かもね…とテレビをつけてみることに。するとそこには関西ではなく、東北のひどい揺れが映っていたのです。その夜、原子炉が危ないことを知りました。目に焼き付く津波の映像、原子炉のこと…恐ろしい気持ちでなかなか眠れませんでした。そして水蒸気爆発

て関わっているひろば（こすもすの家）で「放射能の勉強会をやってもいいですか」と提案してみました。私は専門家ではないので、インターネットからの情報がおぼろげでしたが、テレビでは報道されないことがあることをもっと知ってもらえたらという気持ちでした。そしてひろばで放射能をまなぶ会（隔月、自由参加）を開くこととなり、これまでの間に福島に実家がある方、関東から避難されてきた方、何気なく興味を持ってくださった方々と、いろいろな参加がありました。それぞれの立場や思いがあり、結論が出る訳ではありませんが、思っていることを話し合える場があるというのは、私にとって本当に救いになりました。

テレビや新聞で、専門家が安全だというところをそのまま信じてしまいがちです。でも論文の解釈により専門家の間でも議論があったりもするので。私達は

が起こってしまったのです。

テレビでは安全だ、CT何回分だ、飛行機何往復分だと言っています。でも外部被曝はそうであっても内部被曝は？もともとの基準値よりも何倍も高い基準値に設定され、安全です、と言われてもすんなり受け入れられるはずがありません。そのうち関東や東北では市民の測定所が開設され、検査結果がインターネットに出るようになりました。そのデータと産地を頼りに安全だと思われる食品を選ぶ日々でした。関西ということもあり、事故のことも食べ物のこともこちらから振らなければ話題になることもなく、私は気軽に話ができない苦しさを感じていました。他のお母さんは食材から放射性物質検出を知って、その上で大丈夫だと思っていないのか、または知らないのか…話ができないのでそれすらもわかりませんでした。ある日、思い切って私がスタッフとし

データを知り、過去の事例を調べ、安全論を押し付けられる前に、自分で考えて判断する権利があると思います。人と違う行動や考え方をすると不安になる、不安にさせる、と排除する力が働きます。でも危険だとは言えない雰囲気や漂い、避難や移住する人を非難するようなことになっては黙るしかなくなってしまう。これから育っていく子どもたちには自分の頭でしっかり考え、意見を堂々と述べてもらいたいです。

ひろばがどんな悩みを持つ人にも開かれ、異なった意見も話し合えるような場所であり続けてくれることを願っています。

